

横須賀・三浦構想区域における過剰な病床機能への転換について

1 医療法及び国通知（H30.2.7 地域医療構想の進め方について）における考え方

- 都道府県は、公的医療機関等 2025 プラン、病床機能報告の結果等から、過剰な病床機能に転換しようとする医療機関の計画を把握した場合には、速やかに、当該医療機関に対し、地域医療構想調整会議への出席と、病床機能を転換する理由についての説明を求めること。
- 病床機能報告において、6年後の病床機能を、構想区域で過剰な病床機能に転換する旨の報告をした医療機関に対して、速やかに、
 - ① 都道府県への理由書提出を求める。
 - ② 理由書の理由等が十分でない場合は、地域医療構想調整会議での協議への参加を求める
 - ③ 調整会議での協議が整わない場合は、都道府県医療審議会での理由等の説明を求める

2 横須賀・三浦構想区域の病床の状況（平成 29 年度病床機能報告結果）

構想区域	病床機能区分	2017(H29)病床機能報告結果 (A)	2025年の必要病床数 (B)	必要病床数との比較 (過剰・不足) (A-B)	過剰な病床機能
横須賀・三浦	高度急性期	1,471	780	691	→ 過剰
	急性期	1,971	2,210	△ 239	
	高度+急性期			452	→ 過剰
	回復期	443	1,913	△ 1,470	
	慢性期	1,181	1,227	△ 46	
	休棟中等	435	-		
	合計	5,501	6,130		

3 進め方について

平成 30 年 10 月	第 3 回三浦半島地区保健医療福祉推進会議（地域医療構想調整会議） ・「2025 年に向けた対応方針」等に基づく該当医療機関について県から報告、意見聴取
平成 30 年 12 月	・必要に応じて、転換計画の詳細について県から医療機関に確認、調整等 ・医療機関等が参加する意見交換の場（ワーキンググループ）において、意見交換
平成 31 年 2 月	第 4 回三浦半島地区保健医療福祉推進会議（地域医療構想調整会議） ・（必要に応じて）当該医療機関の出席、説明 ・調整会議としての意見を確認

4 過剰な病床機能への転換を検討している医療機関（2025 対応方針より）

医療機関名		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	理由・転換時期（予定）
神奈川県歯科大学附属病院	2018現状	-	23床	-	-	-	23床	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命に貢献できるような歯科医療の提供。 ・現在の23床から25床（移転前の病床）に戻したい。 ・時期は2年後を目指している。
	2025計画	-	25床	-	-	-	25床	
	差	-	+2床	-	-	-	+2床	
医療法人社団 聖ルカ会 パシフィックホスピタル	2018現状	-	-	-	259床	41床	300床	<ul style="list-style-type: none"> ・療養病床主体であることに変わりはないが、急性期病床を何とか稼働させ、老人保健施設・特別養護老人ホーム並びに各種高齢者住宅等から、本来高度急性期病院を受診する必要が無い患者様の初期対応を行い、在宅復帰を促し、訪問診療・訪問看護・デイケア・訪問リハビリなど在宅部門と連携を取りながら、入院施設を有する訪問診療として包括的に地域高齢者をケアしていく。 ・西棟（休棟41床を含む）においては、今後改築を検討することもあり得るため、地域の情勢を勘案し、一般病床から療養病床への転換もあり得る。
	2025計画	-	41床	-	259床	-	300床	
	差	-	+41床	-	-	△41床	-	
医療法人 大樹会 ふれあい鎌倉ホスピタル	2018現状	-	40床	20床	52床	-	112床	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉旧市街地地域における基幹病院（総合病院）として24時間365日救急受入。 ・急性期から回復期-慢性期と幅広いステージでニーズに応じた医療サービスを提供する。 ・建物老朽化のため、現在建て替え工事を計画進行中。 ・H28配分済（44床（うち、29床回復期リハビリテーション））、H30許可済（H31年10月開設予定）
	2025計画	-	58床	50床	48床	-	156床	
	差	-	18床	30床	△4床	-	44床	
	2016年 事前協議 配分	-	15床	29床	-	-	44床	
一般財団法人 鎌倉病院	2018現状	-	34床	33床	-	18床	85床	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科を中心とした一般急性期と、地域包括ケア病床を中心とした地域医療需要に合わせてケアミックス病院として機能を維持、更に強化することを目指す。在宅医療、介護事業所との連携、いずれは自院での展開を計画しており、地域におけるかかりつけ医療機関の役割を継続して行く。 ・3年後を目標に、現在地での病院建て替え計画をしている。建て替え後は、現在の許可病床85床から107床へ、一般病床22床増床し、手術室も現状1室のところを2室へ増やし、現状受け入れが難しくなっているケースや、入院時期が先延ばしになっているケースなども受け入れ可能にする体制を強化して行く。 ・H28配分済（22床（地域包括ケア））、H29許可済（平成33年8月開設予定）
	2025計画	-	48床	59床	-	-	107床	
	差	-	14床	26床	-	△18床	22床	
	2016年 事前協議 配分	-	22床	-	-	-	+22床	
医療法人社団 則天会 逗子病院	2018現状	-	-	-	36床	-	36床	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療は医療にとどまらず、生活環境の福利を増進する役割を担っていると感じている。 ・2022年頃に40床程度の介護医療院を新設する計画と既存の病院（36床）も建て替える計画がある。
	2025計画	-	40床	-	-	-	40床	
	差	-	+40床	-	△36床	-	+4床	
医療法人 沖縄徳洲会 葉山ハートセンター	2018現状	-	83床	-	-	6床	89床	<ul style="list-style-type: none"> ・逗葉地区の急性期病院として、内科系入院の受け入れ、救急患者の受け入れを更に強化していく。 ・今後はスタッフの確保に努めて2025年までには休棟中の6床を開棟する予定。
	2025計画	-	89床	-	-	-	89床	
	差	-	+6床	-	-	△6床	-	

医療機関名		高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	理由・転換時期（予定）
医療法人沖 縄 徳 洲 会 湘南鎌倉総 合病院	2018現状	619床	-	-	-	-	619床	・二次医療圏が縦に長く分断されているイメージがあるため、患者の流動を考慮し、ポストアキュートやサブアキュート等へのスムーズな連携を他院と図り、地域で完結するように努める。また、外傷センター、先端医療（先進医療）センター、包括的がんセンターを設立し、広域急性期病院を目指す。
	2025計画	648床	-	-	-	-	648床	・現在、ICUからの転棟先が一般病床となっていることから、患者の安全性の向上と密度の高い医療の提供を目的に、2018年度中に特定入院病床であるHCU（16床）の整備を行う計画である。そして、占床率が90%近くとなっているICUにおいても、手術後の患者安全をさらに高めるため、2019年度に現状の8床から12床（4床増）に拡張する計画である。
	差	29床	-	-	-	-	29床	・また、身体的疾患を伴う精神疾患（認知症を含む）患者が近年急増しており、これに対しては、精神科の入院を可能とする専用病床（10床）を2019年度に整備する予定である。
	2015年 事前協議 配分	29床	-	-	-	-	29床	（HCU病床：16床 精神科病床：10床 ICU 病床：8床⇒12床 救命救急病床：20床 NICU病床：6床） ・H27配分済（29床：救命センター・外傷 センター増築）
横須賀市立 うわまち病 院	2018現状	127床	190床	50床	50床	-	417床	・うわまち病院は、高度急性期から回復期までを担っており、小児救急を含む救急医療、周産期医療のほか、在宅療養後方支援病院として在宅患者の受け入れにも対応している。また、回復期リハビリテーション病棟を有し、地域包括ケアシステムの一翼を担っている。
	2025計画	142床	199床	109床	-	-	450床	・新病院においても引き続きこれらの機能を担い、小児医療については、現状市民病院からうわまち病院に機能集約しているメリットを生かし、新生児期以降の小児重症患者へのより充実した対応を図る。 ・うわまち病院の現在の病床数と2025年（新病院）の予定病床数 高度急性期 127床→142床（+15床） 急性期 190床→199床（+9床） 回復期 50床→109床（+59床） 慢性期 50床→0床（△50床） 合 計 417床→450床（+33床）
	差	+15床	+9床	+59床	△50床	-	+33床	・市立2病院を一体として考え、市立2病院合計の高度急性期、急性期病床数は、2025年以降も現在の病床数と同じとする。回復期、慢性期病床は、地域の医療提供体制や医療需要を鑑み、市立2病院合計で減とする。 予定時期は新病院開院予定の2025年度（平成37年度）とする。

【参考】								
医療機関名		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	計	理由・転換時期（予定）
横須賀市立市民病院	2018現状	84床	256床	95床	-	41床	476床	<ul style="list-style-type: none"> ・市民病院は、高度急性期から回復期までを担っており、在宅療養後方支援病院として在宅患者の受け入れにも対応している。また、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟を有し、地域包括ケアシステムの一翼を担っている。 ・今後も引き続きこれらの機能を担う。また、三浦半島西側で、くも膜下出血の搬送時間が他の地域よりも時間を要する60分圏内エリアとなっていることから、医師の確保等により脳卒中患者の受け入れ体制拡充を図る。 ・市民病院の現在の病床数と2025年の予定病床数
	2025計画	69床	247床	68床	-	-	384床	<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期 84床→69床（△15床） 急性期 256床→247床（△9床） 回復期 95床→68床（△27床） 慢性期 0床→0床 休棟 41床→0床（△41床） 合計 476床→384床（△92床） （他に感染症病床6床あり）
	差	△15床	△9床	△27床	-	△41床	△92床	<ul style="list-style-type: none"> ・市立2病院を一体として考え、市立2病院合計の高度急性期、急性期病床数は、2025年以降も現在の病床数と同じとする。回復期、慢性期病床は、地域の医療提供体制や医療需要を鑑み、市立2病院合計で減とする。 予定時期は新病院開院予定の2025年度（平成37年度）とする。

5 ワーキンググループにおける検討状況

(1) 概要

- 神奈川歯科大学附属病院、パシフィックホスピタル、ふれあい鎌倉ホスピタル、鎌倉病院、逗子病院、葉山ハートセンター、湘南鎌倉総合病院について意見交換を行った。
- このうち、パシフィックホスピタル及び逗子病院については、急性期に転換する病床数が多く、現行の機能と比べて大きな変更となることや不確定な部分等があることから、協議を継続することとなった。その他の病院については、病床配分の事前協議において既に認められた機能であったり、建て替えに伴う若干の病床構成の変更等であることから、課題は出されなかった。

(2) 主な意見

- ・在宅で入院し、ある程度の治療をしながら入院させる場合は、急性期と位置付けなくても回復期や療養型（慢性期）でもいいのではないかと。
- ・高齢者の脱水症状や肺炎は、地域包括ケア病棟で受け入れても医療費が反映されず一括ということになるため、いわゆる急性期で受け入れている。必要な医療費がきちんと反映されることが大事で、その議論が今後非常に大事になってくると思う。
- ・実際問題として、療養病床も医療費が包括なので、少し重症になった場合に抗生剤もかなり高いものを使うことも生じるので、病院の経営としては少し難しくなる可能性もある。
- ・サブアキュートをどのように捉えて必要病床の病床機能に反映しているのかがはっきりしないので、急性期をどう捉えて、どのような病態をどのように分けて病床を決めていくのかといったところをできるだけ明らかに定義してもらいながら議論を深めていく形にすれば、より早く、適正な方向に病床が流れていくのではないかと。
- ・在宅から来られる方は圧倒的に肺炎、心不全、複雑骨折が多く、亜急性にできなくはないが在宅復帰率の問題もあり、純粋な急性期が必要だと思うが、必要だからといって漫然と作るのではなくてそれに応えられるレベルの医師がいないと難しいと思う。
- ・急性期病棟を増やすかどうかの論議をしているときに、急性期の可能性もあるが療養になるかもしれないという漠然とした計画では他の医療機関の計画を阻害する可能性もあるので、最初から急性期なら急性期、療養なら療養と計画を立てた方がいいのではないかと。